【東京都】

マスコット『ぐろびっと』

渋谷教育学園渋谷高等学校
高校生グローバルニュース局

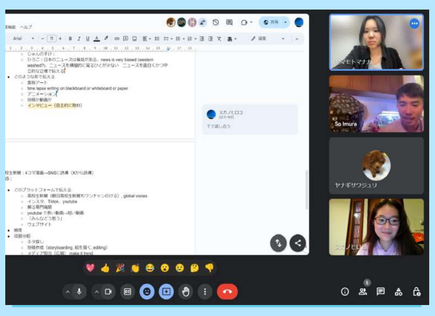
高校生ボランティア・アワード2025

活動概要

私たちの活動内容は主に2つあります。
1つ目は、SNSを用いたニュースの発信です。
発信内容は日本であまり報道されない時事問題の解説と、国際的な社会問題の歴史的経緯の解説です。以前にはリール動画を用いた投稿をしていましたが、閲覧者のフィードバックを経て、現在は4コマ漫画を通じた解説がメインの媒体になっております。

【投稿の作成におけるプロセス】
ニュースの中立性を保ちながら興味が沸くような投稿ができるように、私たちは一つの投稿にあたって4段階のプロセスを踏んでいます。
まずは週1のミーティングで取り上げるトピックを決めます。決まったトピックをもとにリサーチ担当が最低4個の文献を使って情報をまとめます。ストーリー係はその情報を一連の流れにまとめ、4コマ漫画の展開に落とし込みます。イラスト係はストーリー係の指示をもとに4コマ漫画を描きます。最後に、投稿作成係が4コマ漫画に解説を加え、収まりきらなかった情報をスライドに載せます。このプロセスを通して常に行っているのは、情報の中立性の確認です。生成AIや教員の確認に通すことで、情報に誤りや偏りが出ないようにしています。
このプロセスを複数のユニットで繰り返すことで定期的に中高生にニュースを発信しています。
また、投稿の作成において、実際にインタビューなどを行っています。

2つ目は、対面の企画です。
中学生だけではなく他の世代に対して情報を発信するために、リサイクルに関する自作紙芝居を幼稚園で読み聞かせしました。
また、私たちの活動やニュースの中立性の大切さを伝えるプレゼンを200名の高校生で発表しました。



中高生にとって「最も身近な情報局」になりたい

ニュースを発信することにおいて、メディア・バイアスは頻繁に生じてしまっています。メディア・バイアスとは意図的または無意識的に特定の視点や情報源に偏ることにおいて、発信する情報も一方向に偏ってしまうことです。早稲田大学の劉凌講師の研究によると、アメリカや日本は世界の国の中でも特に自分の意見と一致した記事のみを見ていることが明らかになりました（図1）。研究の結果、日本人は中国人、韓国人、欧米人が署名した記事のうち、欧米人の署名した記事を最も選択し、読んでいたことがわかりました。このように、日本のメディアや日本人の個人的なバイアスによって、私たちが日常的に得ている情報は全てバイアスを持っています。しかも、モバイルマーケティングデータ研究所の調査によると、日本の若者の**65%以上**はテレビのニュース番組で日本や世界のニュースを見ていることがわかりました（図2）。

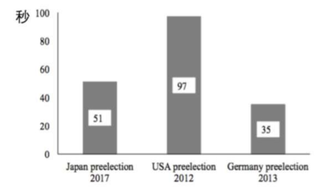


図1

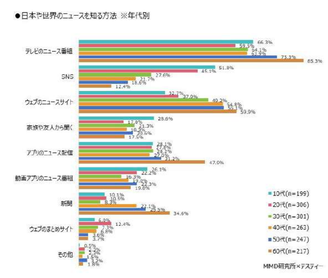


図2

そこで、私たちは日本の中高生に面白く、かつ中立的な観点でニュースを伝えることができる**「最も身近な情報局」**になりたいと感じました。日本では取り上げられていない国際情勢や世界のニュースを中立的な立場から発信することで、偏った意見を持たせることなく、日本の全ての中高生に国際的な視野を広めてもらい、世界の様々な問題について自分で意見を持って考える力を身につけるきっかけを作り出したいと思いました。

4 質の高い教育をみんなに

わかりやすく、面白い四コマ漫画を通じて、中高生が各国の社会問題や情勢について学び、質の高い情報と国際教育へのアクセスを提供しています。

16 平和と公正をすべての人に

日本にいる学生にもバイアスのない中立的な視点を届け、この活動を通して公正な情報にアクセスする権利を実現させています。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

日本の多くの若者は世界情勢や国際問題と触れ、これらについて考える機会が少ないため、知識が不足しているところがあるとも言えます。私たちはこの活動を通して、より多くの日本の中高生が他国の社会問題に対して関心を持ち、将来的に直接的または間接的に支援・協力をするようになれることを希望しています。

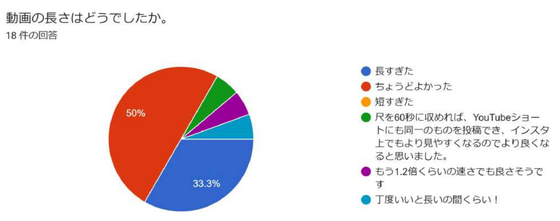
劉凌. “日本におけるメディアの政治報道が人々に与える影響を探る. 早稲田大学高等研究所.2023-10-2.
https://www.waseda.jp/inst/wias/news/2023/10/02/14084/
MMD研究所. “番組視聴中のスマホ操作は中高生より大人の方が多い結果に ニュースを知る理想的な形式、「画像と文章」が全ての年代でトップ 10代は「動画」が2割を超える”. モバイルマーケティングデータ研究所 2019-6-26.
https://mmdlabo.jp/investigation/detail_1804.html

SNS上の投稿

【実績】
1万回以上の視聴回数
14個のイラスト投稿

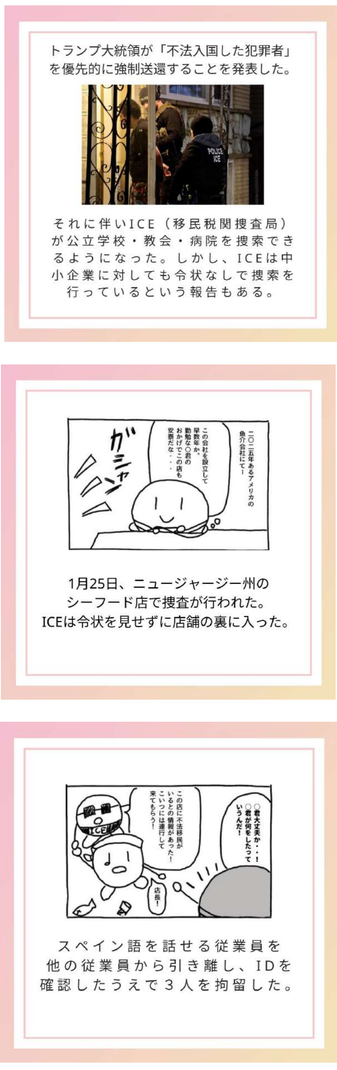
【投稿を通して気づいたこと】
SNS上の活動を通して、私たちは若者のSNS及び社会問題に関する消費行動について2つのことに気づきました。

1つ目は、動画よりスライド式の4コマ漫画のほうが人気だということです。それぞれについた「いいね」の数を比べると、リール動画にはスライド式の漫画の75%しか「いいね」がつきませんでした。
その背景には、スライド式の4コマ漫画のほうが時間が有効活用できるという点があります。視聴者にリール動画に関するアンケートをとったところ、リールの長さに関して意見が多いに割れました。人によって読み進める速度は違うため、特に情報量の多いニュースに関しては、スライド式の投稿のほうが効果的だと思われます。



2つ目は、内容について分析すると、最も人気で「いいね」が多かったものは、オリジナルのキャラクターを中心とするストーリーでした。これには実は心理的根拠があるのです。日本のZ世代の消費行動を研究している教授によると、私たちは「エモ消費」というものをしていて、共感性の高いものを消費する傾向にあります。ひとりのキャラクターとその感情などに集中するほうがストーリーが一気に身近になり、共感がしやすくなるのではないかと考えました。

これらの気づきをもとにこれからの投稿を改善し続けます。



幼稚園ボランティア

私たちは中高生以外の年層にも情報発信をしたいと考え、幼稚園と連携し、園児のために四コマ漫画ではなく、5歳の子供達にとってわかりやすいように紙芝居を手作りして読み聞かせ、リサイクルをすることの大切さを教えました。読み聞かせの後には、リサイクルを練習するゲームをして、リサイクルや環境保全について少しは関心を持ってもらえたと思います。
紙芝居を作成するのにおいて、子供の絵本の作者さんにもアドバイスをいただき、どのような紙芝居が一番園児たちにとってわかりやすくて面白いのかを教えていただくことができました。リサイクルというのは技術的な話をすると複雑になってしまうので、私たちは「ペットボトルマン」というキャラクターの変身を話のベースにした紙芝居を作成しました。
紙芝居の読み聞かせ後のアクティビティーは、ゴミの山からペットボトルマンのお友達を救うというテーマで、紙などの中からペットボトルを見つけ出し、それをリサイクルの箱に入れるタイムを二つのチームで競い合いました。園児たちがとても楽しそうにペットボトルマンを救っているところを見て、心が温まりました。
この活動は、学校のボランティア部とも連携して、当日は十人以上のボランティアが集まり、大賑わいでした。

15 陸の豊かさも守ろう

幼稚園児にリサイクルの概念を完全に理解してもらうというのは非常に難しいものの、この活動を通してリサイクルについて少しでも面白く思ってもらい、興味・関心を持ってもらうことができたと思います。

今後に向けて

【今までの活動の展開】
・もう既に作成した紙芝居をもとに、幼稚園の読み聞かせ企画をより多くの幼稚園に展開します。
・もう既に一回しましたが、インタビュー事業を展開する予定です。初回はコンビニの労働環境に関してコンビニの職員の方々にインタビューさせていただきましたが、次回からは国際インタビューを視野に入れたいと思っています。
・先月新しいメンバーが12人高校生グローバルニュース局に加わりました。新メンバーは様々な興味・得意分野を持っていて、今後の投稿では時事ニュースだけではなく、身近な社会・科学現象の解説をする期待ができます。

【新しい企画】
・もう既にいくつかの会社と連絡をとっていますが、新聞で連載の機会をいただければと思っています。より多くの人に高校生グローバルニュース局のイラストを見てもらい、世界のニュースに触れてもらいたいです。
・視聴者の皆さんに高校生グローバルニュース局を通してニュースを学ぶだけではなく、最終的には積極的に発信してほしいです。そのため、オンラインで他校の中高生をわたって社会問題を話し合う企画を開催する予定です。
・最後に、様々なニュースをリサーチするうえで、中立性の高いニュースを見極める難しさを日頃から感じています。私たちの経験をもとに、他の中高生がより良い情報を見極められるために、オンライン講座を開こうと思っています。

ぜひ応援してください！！

高校生グローバルニュース局

2024年8月から活動開始。
YouTube, TikTok, Instagramの三つのプラットフォームで四コマ漫画を届けている。毎週日曜日投稿。
元々6人の高校2年生を中心に活動を始めたが、今では色々な学校からの参加者が加わり、17人のメンバーがいる。
もし興味を持っていただけたら、Instagramのチェックもしてみてください！→

@KOUKOUSEIGLOBAL